



得られるメリット	上原会計の工夫	こんなことが起きていないか
高度な専門知識を要する業務を処理する専門職と安定的な処理が求められる業務を処理するアシスタントを分離。専門職は高度な業務に集中。アシスタントは事務処理に集中できる	仕事内容に応じて担当者を分離	10年選手で実務知識が十分なレベルになっても新人スタッフが補充されない限り記帳代行業務や給与計算から解放されない。より高度なサービスへの時間がとれない
家庭があるので残業はできない。経営相談に応じるのは怖いけど、細かい事務仕事は得意。税理士になりたいわけではない。そういう方の能力を当事務所はアシスタントとして歓迎しています	仕事の向き不向きに応じて業務配置	子供が熱を出したので病院に連れて行きたいけど、自分の担当先との約束が。。。40歳になっても若者が辞めると記帳代行入力業務が戻ってくる。引退するまで入力業務から離れられないのか。。。
1社に対して複数のスタッフが関与しているので、退職者が出てブラックボックスが生じ難い	1社に対して複数人で対応	1社を1人で処理していることが多いので、その人が退職すると処理前提や経緯、処理判断の当否が引き継がれない可能性がある
担当顧問先のローテーションをしているので、現在担当しているスタッフ以外の者でも相当程度の処理に対応することができる。スタッフはその分経験値を上げることができる	顧問先分担のローテーション	担当者の退職時に担当替えが行われるか、担当者の負荷調整時に担当替えが行われている程度。同僚が担当している顧問先の処理内容は誰もわからない？
複数のスタッフが特定の顧問先を担当しているので有給休暇を取得しやすい。専門職が外出しているとき、急な病欠時にはメインアシスタントやサブアシスタントが一次対応するなどの可能性が広がる	有給取得や急な病欠時の対応	処理が渋滞していると有給休暇を取得しにくくなる。ひどい場合は休日出勤が必要になってしまう。連絡がとれない・レスポンスが悪いというクレームの原因になりやすい
アシスタントは完全内勤制としているため顧問先で一人で社長の質問などに応じる必要がない。わからないことは専門職担当や他のアシスタントに質問して直ちに解決できる	アシスタントは外回り禁止	経験の少ないスタッフは顧問先では何を聞かれるか不安もいっぱい。質問事項に即答できなければ持ち帰って回答の繰り返しになりやすい
記帳だけではなく資料回収も内勤のアシスタントが集中処理しており、専門職担当者は資料回収のための訪問や記帳のための訪問をする必要がありません	資料回収と記帳処理の体制	担当者が記帳その他の全ての業務を担当しているため、日中に顧問先訪問し、帰社後記帳処理や調べ物をしていることが多い。恒常的な残業体質になったり、休日出勤の原因になりやすい
複数人で対応するためスケジュールの共有が不可欠となり、週次で処理サイクルを決めている。ローテーション制度と奏効して遅延時のリカバリー体制に貢献している	処理スケジュールの明確化と維持	スケジュールは各担当者の裁量に任されていることが多く、特定の顧問先に緊急処理が必要となった場合、他の顧問先のスケジュールとバスターしてしまいがち
なぜこのような処理をすることとしたのか、参考資料、判断ロジックなどをドキュメントにまとめているので何度も同じ内容のことを調べないで済む	処理経緯や処理判断のドキュメント化	ドキュメント化は各担当者の判断によることが多く、バラツキが大きくなる傾向がある。同じことを何度も調べることになる可能性も大
記帳代行にあたっては、当事務所オリジナルのEXCELスプレッドシートを顧問先に配布し基礎入力をしてもらっています。アシスタントはそのシートに勘定科目を割付、会計ソフトインポート用CSVデータを生成していますので入力が高速対応できます。恐らくfreeやMFクラウド会計よりも高速。	会計入力EXCELベースで高速入力(半クラウド会計?)	記帳代行のときは通帳と請求書・領収書を見ながら地道に手入力。自計している場合には、気まぐれのように入力された仕訳を整理するのに一苦労。顧問先の担当者が変わると処理が不安定化して教育をやり直し。。。
専門職担当は20時に、アシスタントは19時にサーバーへの接続を遮断する仕組みとなっています。土日祝日はサーバー接続できません。こっそり残業・休日出勤ができないようにすることで、業務遅延の早期発見と社員の健康管理を行っています	サーバーからノックアウト	当事務所では15年以上前から同様の管理をしてきました。現在でも大規模事務所と同様のことをしているところがあるでしょうけど、中規模事務所以下では珍しいかもしれません